

## 第2回 明大通り沿道協議会

### 次 第

令和2年2月18日(火) 10:00~11:30

千代田区役所 8階 第二委員会室

#### 1. 開 会

#### 2. 議 事

##### 【報告事項】

- (1) 前回協議会の議事要旨(確認)
- (2) 第1回沿道協議会において確認が必要とされた事項(報告)
  - ・交通量調査について
  - ・道路下埋設物の状況について
  - ・植樹柵の構造などについて

##### 【検討事項】

- (1) 歩道拡幅及び樹木の配置について
- (2) 緑が健全に育つための植樹ますの構造について
- (3) 街路樹の樹種や剪定方法を含めた維持管理について

##### 【本日の検討内容】

- (1) 歩道拡幅及び樹木の配置について
  - ・模型を使った歩道拡幅状況や街路樹配置等の確認
  - ・意見交換

#### 3. その 他

#### 4. 閉 会

##### 〈配布資料〉

- 資料1-1・・・第1回明大通り沿道協議会次第
- 資料1-2・・・ 〃 席次表
- 資料2・・・ 〃 議事要旨
- 資料3・・・歩行者交通量について
- 資料4-1・・・現況計画重ね図及び埋設管横断図
- 資料4-2・・・植樹柵構造図
- 資料5・・・現況平面図

## 第2回 明大通り沿道協議会 席次表 R2.2.18(火)10:00~11:30 第2委員会室

	小川町三丁目 西町会 町会長	【アドバイザー】 榑戸田芳樹風景 計画 取締役	【アドバイザー】 千葉大学 名誉教授	【座長】 法政大学 教授	駿河台西町会	駿河台西町会
	田近	大橋	藤井	福井	石澤	山口
小川町三丁目 西町会						駿河台西町会
澤山						國井
日本大学病院 管財課長						駿河台西町会
山口						赤塚
明治大学 教授						(公財)東京YWCA 常務理事
大森						能美
明治大学 教授						障害者共助会
野中 代理 三和						星野
神田大喜靴店 ・神田在住						千代田区 環境まちづくり 部長
北城						松本

【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課	【事務局】 千代田区 道路公園課長
内田	峰岸	本橋	澤村	中村	石川	谷田部

【コンサルタント】 榑Tetor	【コンサルタント】 榑高島テクノロジー センター 課長	【コンサルタント】 榑高島テクノロジー センター
山田	玉川	犀川

## 第 1 回明大通り沿道協議会 議事要旨

令和 2 年 1 月 21 日 (火) 9:00~10:30

千代田区役所 8 階第 1 委員会室

## ■配布資料による説明

- ・議事次第 ・席次 ・「明大通りⅡ期工事」スケジュール表
- ・明大通りの整備について ・これまでの主な意見
- ・明大通りの経緯経過について ・模型参考写真 ・協議会委員名簿

## ■質疑応答

(千葉大学大学院・池邊教授)

- 明大通りは、歩行者通行量が多く急いでいる時は通行が困難である。

資料内の植栽ますについては、大きさが分かりにくく街路樹の根が張れる範囲を示すことに加え、地下埋設管の状況を把握できる資料が必要である。

樹種は、根があまり張れない場所にケヤキのような高木を整備すると、樹体を支えきれず倒木する恐れがあるので、明大通りの状況にあった樹種を選定する必要がある。

同時に、障害者やベビーカーの利用者を考慮して、車いす利用者の安全確保も考慮すべきである。

子供が木とふれあい、季節感が感じられることも大事である。

プラタナスは、戦後多く植えられ海外でも多く植えられている樹種であるものの、葉が大きいいため集水ますの機能を阻害してしまうことや、車いす利用者が葉で滑り通行しにくくなる欠点がある。

街路樹の維持には剪定が必要であり、剪定を行う際は、年間 2~3 回必要になり、維持管理費用が高くなる。

現在は、昭和 58 年と比べ街路樹の維持管理費が三分の一となり、5、6 年に一回剪定を行う。

緑の市民税を課すことにより、街路樹の維持管理費用を賄う取組みがある。

高木の剪定作業は、高所作業車や交通規制、交通誘導員が必要となる為、道路利用者は迂回する場合がある。

街路樹にも寿命が存在する為、更新も視野に入れた設計が必要である。

千代田区を代表する明大通りの街路樹を 5、60 年または 100 年程度生育し維持管理を想定した整備を考慮すべきである。

新しい街路樹を整備する場合は、2019 年の強力な台風で多くの街路樹が倒木した事実を鑑み、根付くまでの時間を考慮し、闇雲に高木を整備することによる倒木被害出さないよう樹種の選定を行うべきである。

(千葉大学・藤井名誉教授)

- 池邊教授の補足として、温暖化・ヒートアイランド対策として遮熱性舗装が対策として挙げられているが、街路樹の緑陰により路面温度が20℃程低減するが、遮熱性舗装は10℃程度である。

木陰は、路面温度を低減するだけでなく、直射日光を遮る効果もあり、歩行者を守ることに繋がる。

IPCCによると、今世紀末までに地球の気温が4℃上昇する報告が出ている。

千代田区は、東京都内でも最も熱くなる場所であるため、大きな樹冠によって、樹冠被覆率を高め直射日光から歩行者を守ることが重要であり、段差を無くすという物理的なバリアフリーも高く評価できるが、心理的な障壁を解消することも必要であると考えます。

樹冠を大きく取る為には、根が広く張れる環境が必要であり、植樹帯から植樹ますになることで根が張れる空間が減少するため、街路樹の生育にとって不利である。

更に、植樹ますによる整備は、土壌が露出する面積を減少させてしまい、水分の蒸発による気化熱が減少し気温の低減を阻害してしまうことも考慮に入れるべきと考えます。

街路樹の剪定については、名古屋のトウカエデでは殆ど行っておらず、下枝だけの剪定で済んでいる。建築限界を侵す箇所を整理する程度である。

海外では、樹冠被覆率を大きくするため、最低限の剪定しか行わず、通行の妨げになる枝を剪定する程度である。伸ばせるものは伸ばすというのが基本である。

(千葉大学 池邊教授)

- ⇒グリーンインフラとして、街路樹の剪定を年間2回と申し上げたのは、建築限界や視距の確保に必要となる、枝葉や周辺の低木を含む植栽全体の維持管理という考えに基づいた意見である。

(小川町三丁目西町会・岩崎氏)

- 明大通りを整備するよう区長へ陳情を出して10年経過している。明大通りI期区間の歩道が広がって非常に嬉しい。足を怪我してしまい杖をつけていますが、歩行に苦勞する身としては、他の歩行者を避けながら歩く必要が無くなり、大変助かり感謝している。

整備前は、朝9時台になると歩行者を避けながら歩く必要があり、苦勞を強いられていた。

街路樹の問題により整備が停滞しているが、物事には優先順位があると思う。歩道拡幅に対する反対意見が出ていないので、先に整備を行って頂きそのあとに樹木を整備してもらいたい。

樹種については、樹木専門の先生がいるので、街にあった一番良い木を選定して頂きたいと考える。

明治大学のリバティタワーの樹木は、防風林ということでマロニエを8本植えられたが、冬はボウズになるので、防風林としての機能を果たせず、その後新たに植えた木も防風出

来ていない。街路樹は一旦植えてしまうと中々変更出来ないなので、慎重に選定して欲しい。  
私達沿道に住んでいる者は、まず拡幅で街を便利にして欲しい。それが第一でその次に樹木でお願いしたい。拡幅に反対でなければ進めて欲しい。

(小川町三丁目西町会・田近町会長)

●樹木の専門家より意見を頂いたが、書面にして頂いてプラタナスを含め街路樹の長所、短所、維持管理に掛かる費用などが分かる資料で候補となる樹種を決め、樹木を決めている間に歩道の拡幅をして同時進行で進めて欲しい。

(意見者・北城氏)

●日常的に明大通りはよく利用しており、歩道拡幅について異論はないです。  
●疑問点として、Ⅰ期工事では25cm 拡がり、Ⅱ期工事では何故1.5mとなるのか理由を教えてください。

(千代田区・石川主任)

⇒歩道の拡幅量については、Ⅰ期区間は交差点直進・右折・左折の3車線で整備していることに対し、Ⅱ期区間は直進・左折を1車線で整備することから、1.5mの歩道拡幅することができる。

(意見者・北城氏)

●大災害発生した場合、緊急車両以外の車両の制限は誰がやるのか教えて欲しい。

(千代田区・石川主任)

⇒災害時には、千代田区で緊急対策本部を立上げ対策が取られる。その時に道路管理者である千代田区と交通管理者である警察が協同し通行に制限を掛ける。

(意見者・北城氏)

●Ⅱ期区間は、現況2車線から1車線に変更することにより、渋滞を誘発する恐れがあると思う。

(千代田区・石川主任)

⇒停車帯を設けることにより、直進車両が左折する車両を側方通過出来る余裕がある。渋滞が発生しないように、警視庁と協議をして回答を得ている。

(意見者・大森氏)

●Ⅰ期工事で移植したプラタナスは、現在どのような状況かが分からない。

(千代田区・中村課長補佐)

⇒Ⅰ期は、33本プラタナスがあり、移植診断の結果内4本は移植可能と判定された為、区内の植樹まずに移植している。

(意見者・大森氏)

- 現在何本移植して、何本枯死しているのか確認したい。

(千代田区・中村課長補佐)

⇒街路樹の生育状況としては、区内に移植した現在4本中2本が枯死し、苗圃に移植した29の内9本が枯死している。

(意見者・大森氏)

- 移植して、現在枯死していないようであれば、明大通りに戻すことが可能であると思っている。

(株)戸田芳樹風景計画・大橋取締役)

- 現況の植樹帯から植樹ますに整備することは、歩道の拡幅効果がある反面、街路樹の生育にとって健全ではないと考える。健全ではない樹木があっても何の意味もないと考えます。健全に育つ緑を整備することが大切であり、道路の幅員にも影響してくると考えられる。構造と緑の在り方について考えていかなければならない。

歩道の下だけで根を張ることが出来なければ、江戸川区で採用した方式で、根を車道側に張らせることにより、樹体を安定させるなど柔軟な整備も必要であると考えます。

この機会に、千代田区として街路樹の整備に関するガイドラインを作ることが、今後の道路整備にとっても重要であると考えます。

(駿河台西町会・山口氏)

- 沿道住民の意見として、大雨が降るとプラタナスの葉が集水ますを塞いでしまい、処理しきれなかった大量の水が道路を流れてしまうことについても対処を考えて欲しい。

(意見者・野中氏)

- プラタナスの代わりにマグノリアを整備することは、少し寂しく感じ、明治大学の教員や生徒からも同様の意見を頂いている。明治大学の理事や同窓生からも署名が集まり、ゼミで署名を集める状況である。

プラタナス保存の運動で木が中々植えられないことについて大変申し訳なく思っているが、一から街路樹について議論を行うのならば、緑を多く確保出来るよう整備を行う必要があると考える。植樹ますから広く根を張れるよう工事を行って欲しい。

樹種について、明大通りは元々プラタナスが整備されていた場所であったのですが、色々なご意見を踏まえて何とか豊かなプラタナスによる道路整備して頂き、明治大学としても責任ある対応を取ったということになるのではないかと思います。大学を挙げて対応していきたいと考えている。大学や病院が立ち並ぶ通りであるので、専門家のご意見を伺いながら、良い結論に導けるようにして頂きたい。

(小川町三丁目西町会・澤山氏)

●何年も前から沿道協議会を行っているが、議論が全く進まない。原因は、歩道拡幅と街路樹の議論を同時に行っていることであり、別々に整備出来ないかと思う。

町会としては、歩道拡幅工事は是非やってもらいたいことである。駿河台下交差点から明治大学に掛けて、歩道幅員が大変狭く、雨天時は傘を利用して歩く時に不便さを感じてしまう。

街路樹を現況の位置に残して整備することは、神田警察通りの共立女子学園の前で行っているが、歩道拡幅の効果が感じられない。神田警察通りと比べ、明大通りは歩行者交通量が非常に多く、同様の整備を行わないで欲しい。

樹種については、特に要望は無いが、現況のプラタナスは葉が排水溝を塞いで10cm～15cm 浸水した所があった。靖国通り沿いの商店にまで葉が飛来することも悩ましいので考慮して頂きたい。

(小川町三丁目西町会・田近町会長)

●街路樹を議論することにより、歩道拡幅が遅れてしまうことは整備の目的を果たせていないと考える。いつも街路樹の問題で議論が振り出しに戻ってしまう。

歩道の拡幅を先に行って欲しい。

(意見者・野中氏)

●沿道住民の生活が掛かっていることは大変理解できるが、現況のプラタナスをそのままにすることが可能な箇所と歩道拡幅の効果が得られない場所を選定し、出来る限り存置できるように考慮して頂きたい。

(法政大学・福井教授)

⇒このままでは、議論が進まないことが予想される。限られた道路空間の中でどのような街をつくるか議論していくために、今回は資料の写真にあるような大きな模型を使ってその場所に合わせて議論したいと考えている。

(意見者・北城氏)

●街路樹に関しては、千代田区としてのガイドラインが策定されていないことには、整備が進まないと考える。

明大通りの歩行者交通量約4万人では漠然としている為、詳細な内容を確認したい。

(千葉大学・藤井名誉教授)

- 街路樹を整備する上で、埋設管の敷設状況や植樹ます周辺の土壌も考慮した上で整備を行う必要があると考える。

台風等による倒木被害は、公園と比べ道路の方が大きいため、根が広く張れるよう整備を行うべきである。

維持管理を行う上でも、樹木の生育状態を把握して欲しい。

(法政大学・福井教授)

⇒街路樹の整備について、方法等に関する議論を行いたいと考えている。

街路樹の維持管理については、どこが行うのか同時に議論を行う。

(法政大学・福井教授)

- 今後の沿道協議会の検討事項としては、平面上で場所毎に即した歩道拡幅について議論を行う。

街路樹については、樹木の配置と樹種に加えて、維持管理や剪定頻度の検討を行い、千代田区役所、町会、もしくは明治大学のどちらが管理を行うのかについても議論を行う。

(小川町三丁目西町会・岩崎氏)

- 街路樹に関する議論で、いつも道路整備が遅れている。我々沿道住民の願いとしては、歩道の拡幅を第一に行って欲しい。現況よりも良い並木になるのであれば、既設街路樹の撤去を否定しない。現況よりも安全で便利な道路を整備して頂きたい。

(小川町三丁目西町会・田近町会長)

- 夕方5時頃になると、明治大学リバティタワー周辺を学生が多く利用し歩きにくくなる。公開空地に頼らず、歩行者を歩道で処理できるよう整備することも考慮して議論を進めて欲しい。

(法政大学・福井教授)

⇒歩行者交通量については、交通量調査結果を基に議論していきたい。

(千代田区・谷田部課長)

- 今後は、地下埋設管の状況や植樹ますの大きさを踏まえた上で模型を用いながら議論を進めていきたいと考えている。

明治大学リバティタワー付近の歩行者交通量の状況が分る資料を使用する。

次の沿道協議会は、令和2年2月18(火)に開催予定である。

以上



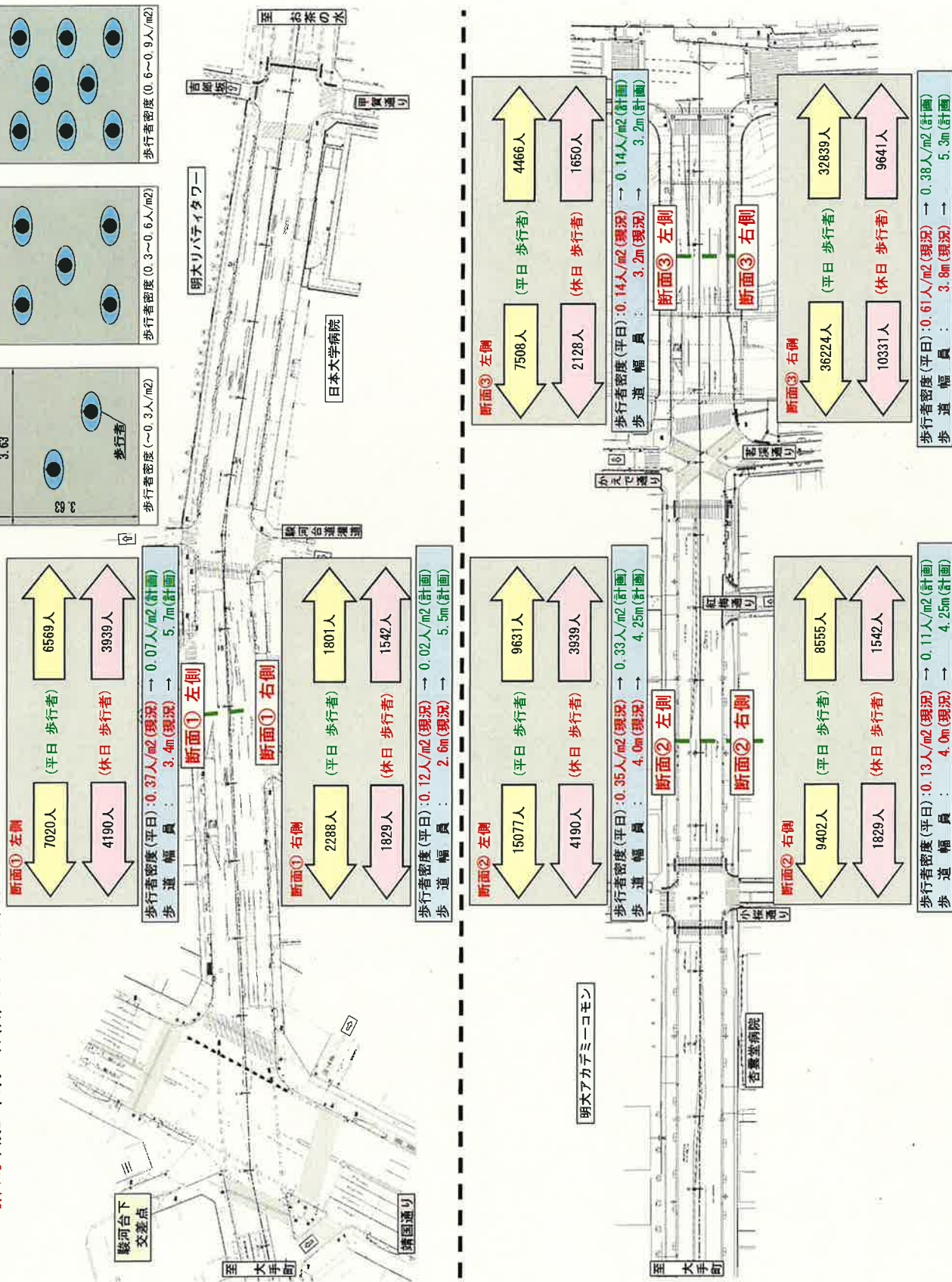
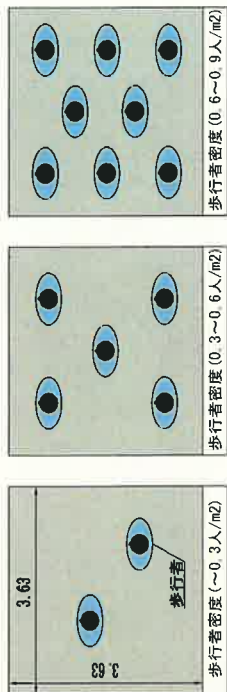
# 歩行者交通量について(平日・休日7:00~19:00)

調査年月日:[平日]平成25年7月11日(木) 7:00~19:00

: [休日]平成25年7月 7日(日) 7:00~19:00

資料 3

<参考模式図>

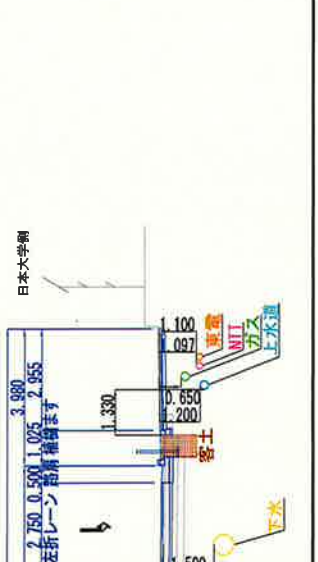
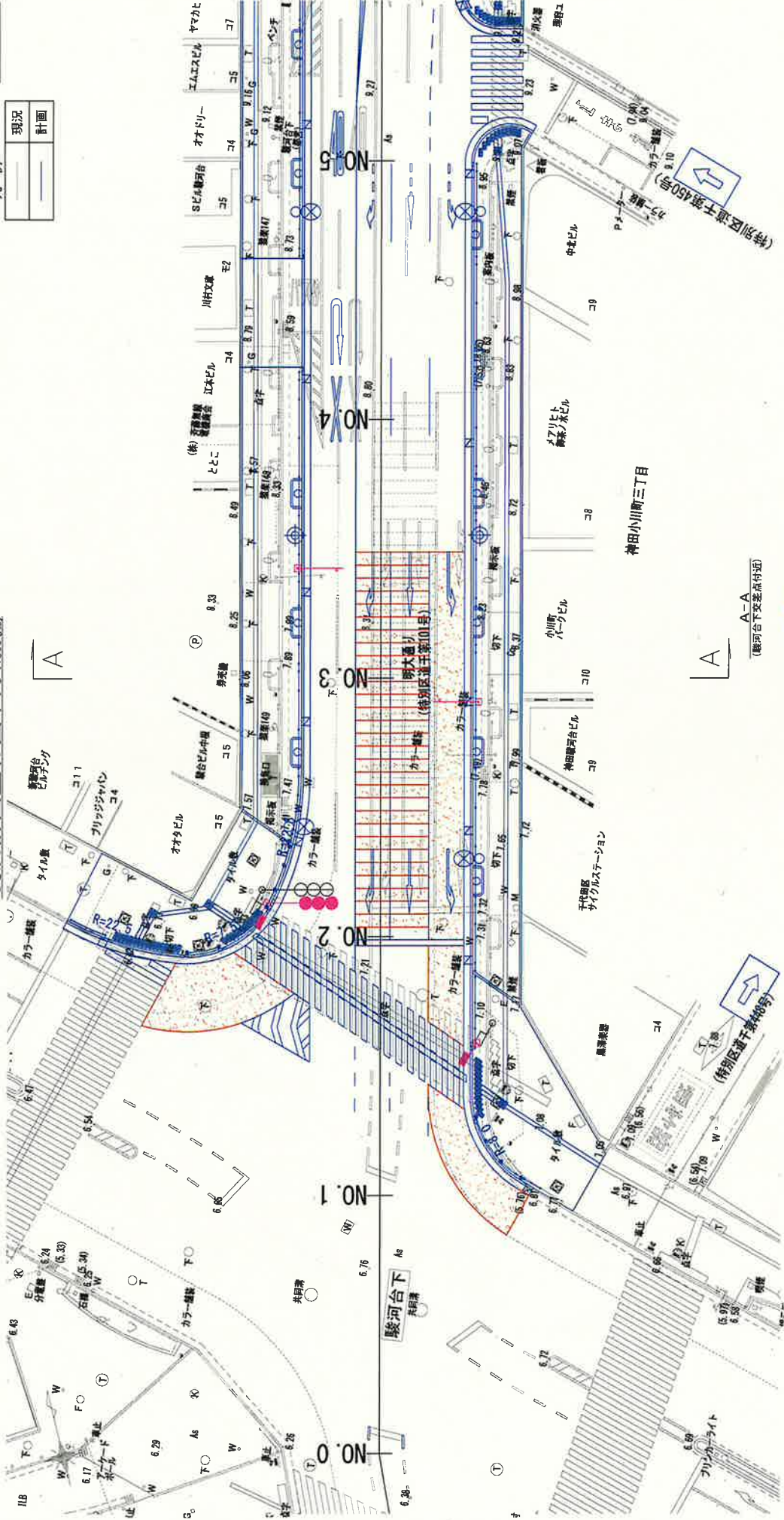


# 現況計画重ね図(1) S=1:300(A3)

資料4-1

凡例

——	現況
---	計画



A-A  
(駿河台下交差点付近)

A-A  
(特別区道千原40号)

A-A  
(特別区道千原10号)

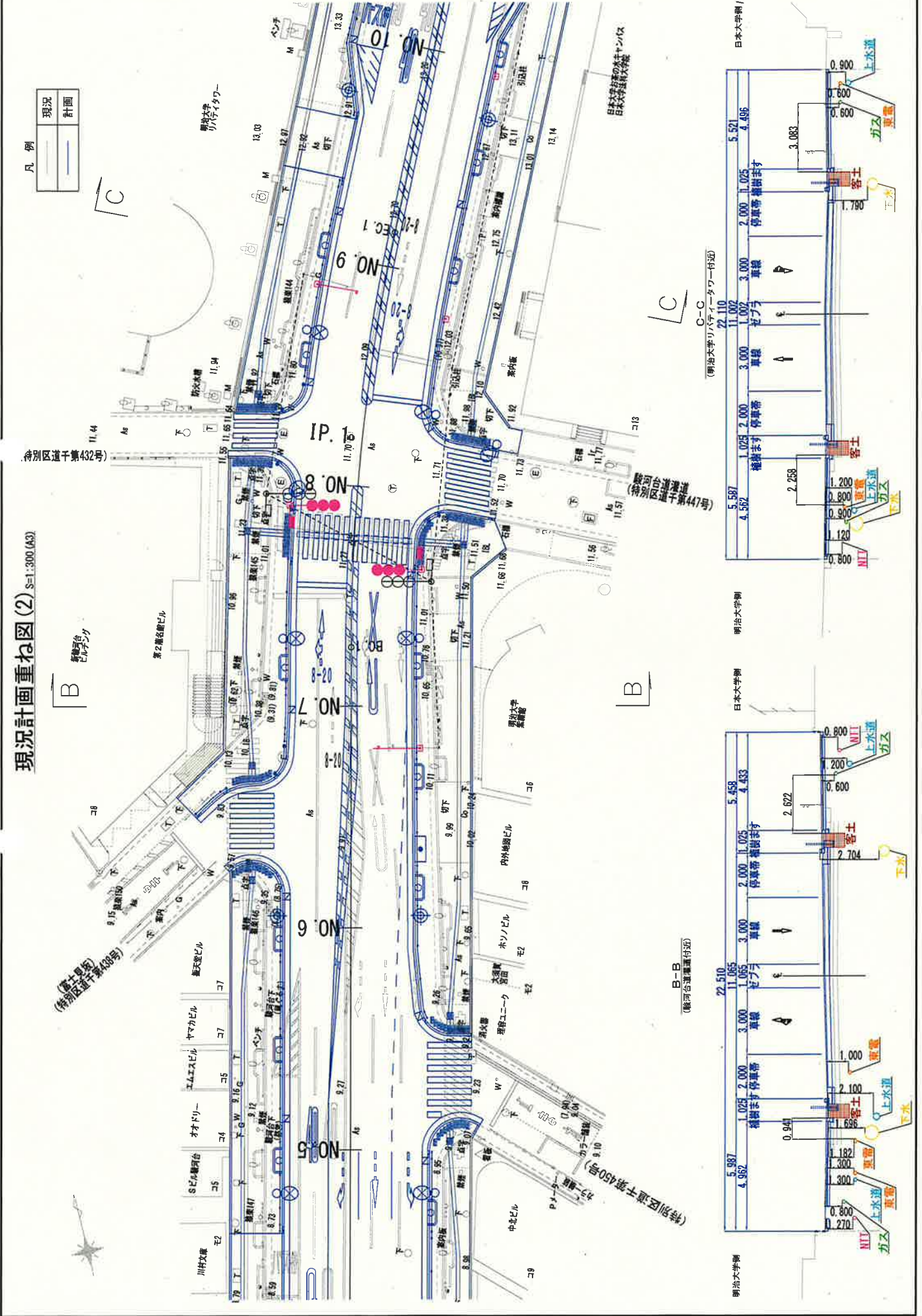
A-A  
(特別区道千原40号)

A-A  
(特別区道千原40号)

A-A  
(特別区道千原40号)



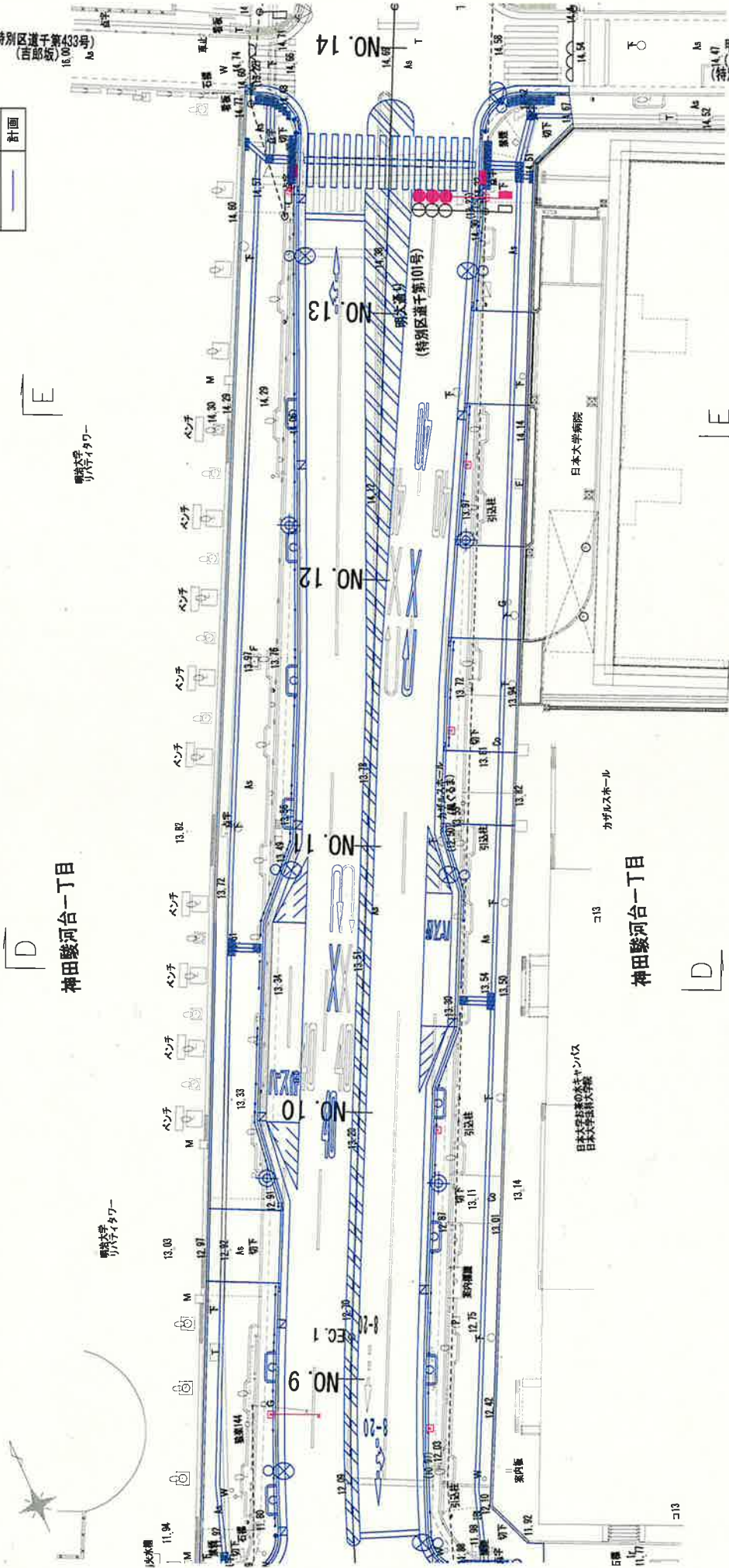
現況計画重ね図(2) S=1:300(A3)



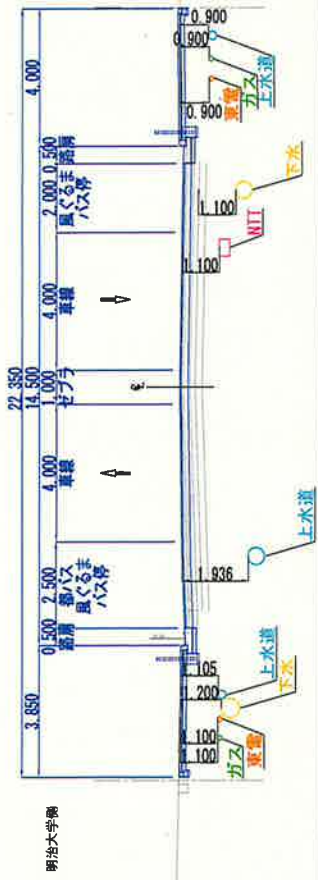
現況計画重ね図(3) S=1:300(A3)

神田駿河台一丁目

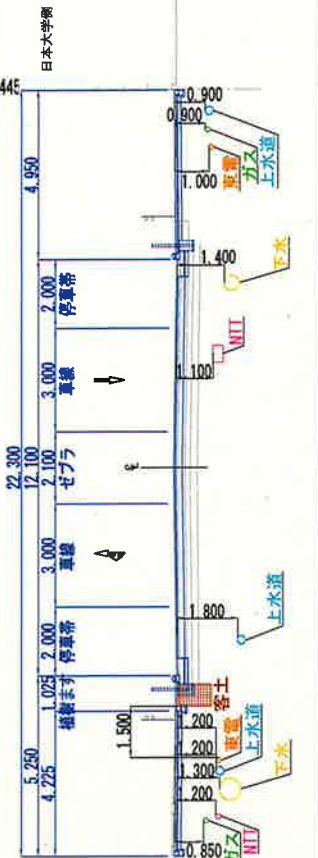
凡例	現況	計画
	(Symbol)	(Symbol)



D-D (明治大学リハビリタワー付近)



E-E (特別区道千第101号)



神田駿河台一丁目

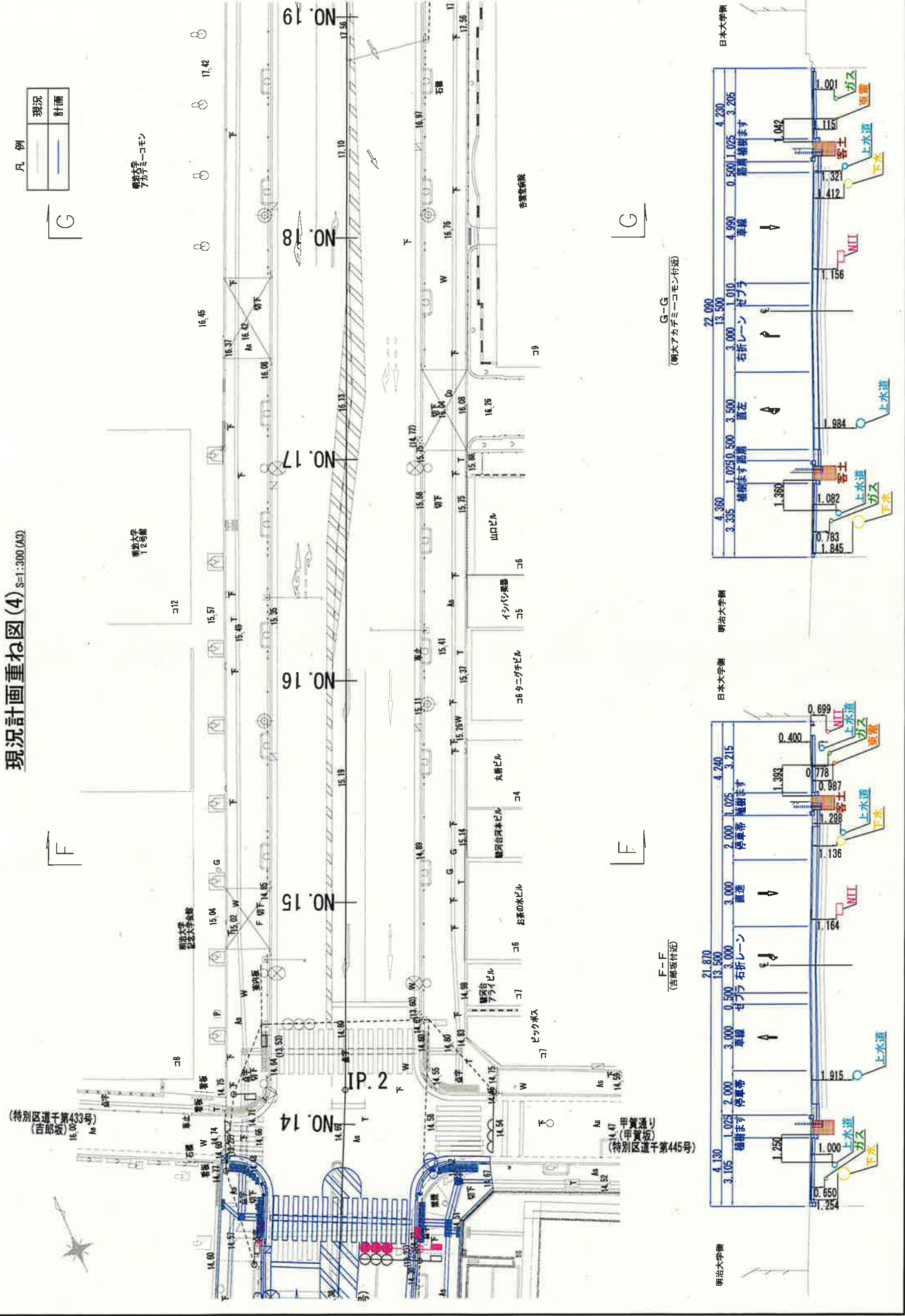
313



現況計画重ね図(4) S=1:300(A3)

凡例

現況	計画
(Symbol for existing)	(Symbol for plan)



F

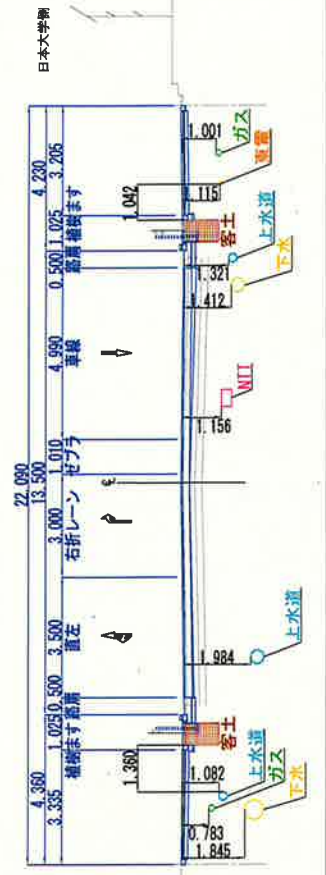
F

G

G

G-G (明大アカサミャーコモン付近)

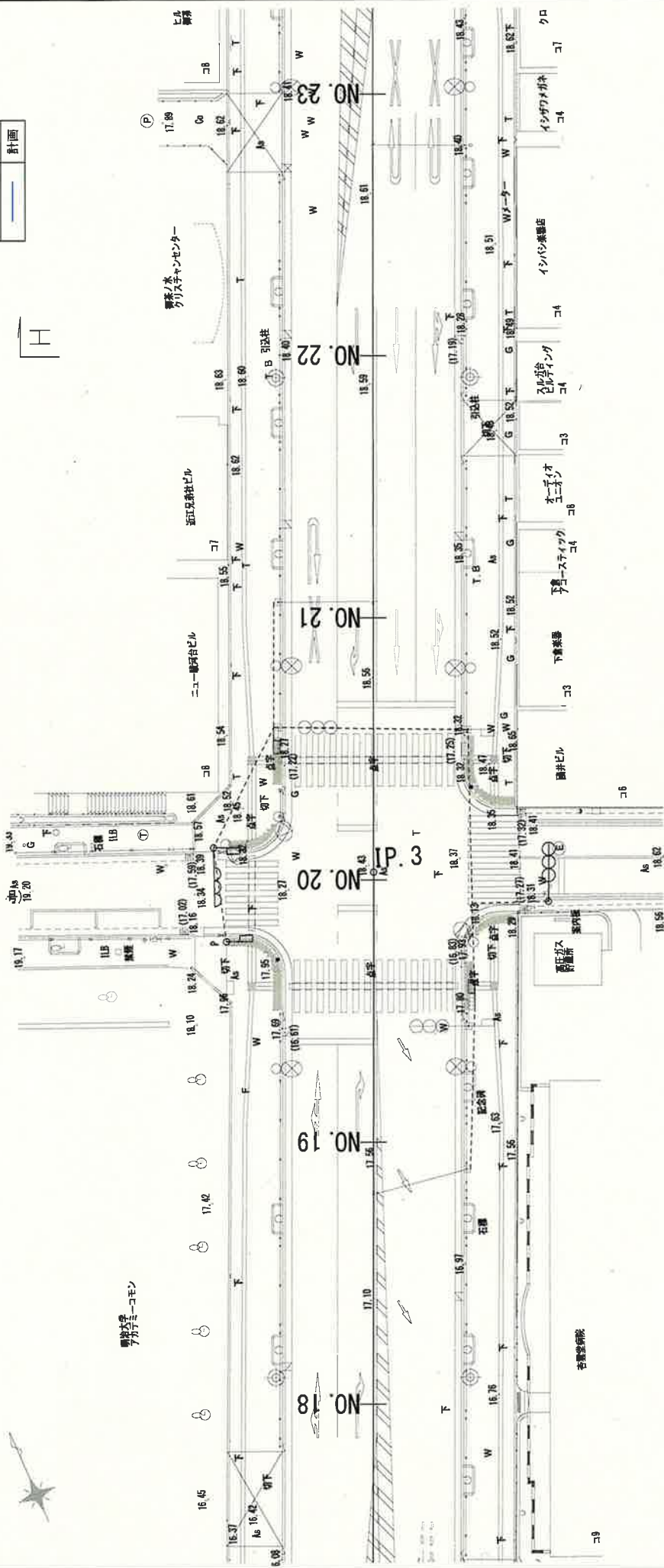
F-F (吉塚駅前近)



日本大学側  
明治大学側  
日本大学側  
明治大学側

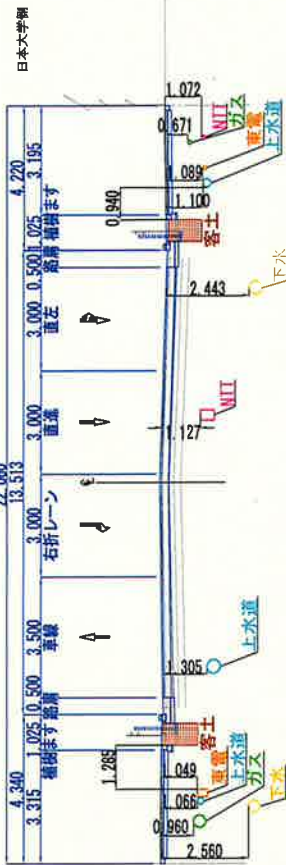
現況計画重ね図(5) S=1:300(A3)

凡例	現況
	計画



小塚通り  
(雁木板)  
(特別区道千第404号)

H-H  
(御茶ノ水クリスタルセンター付近)



明治大学側

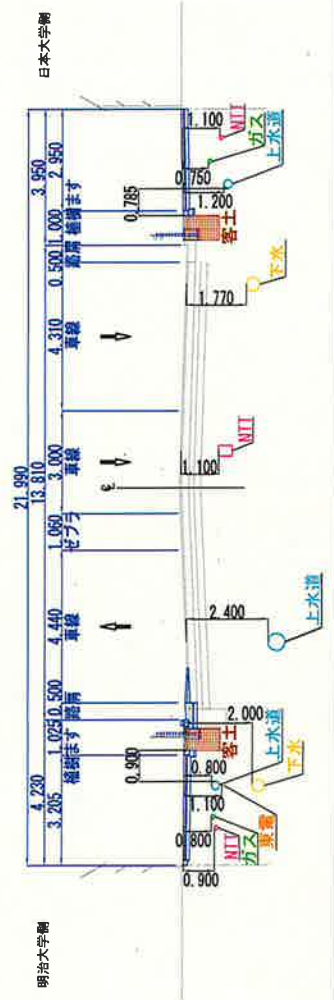
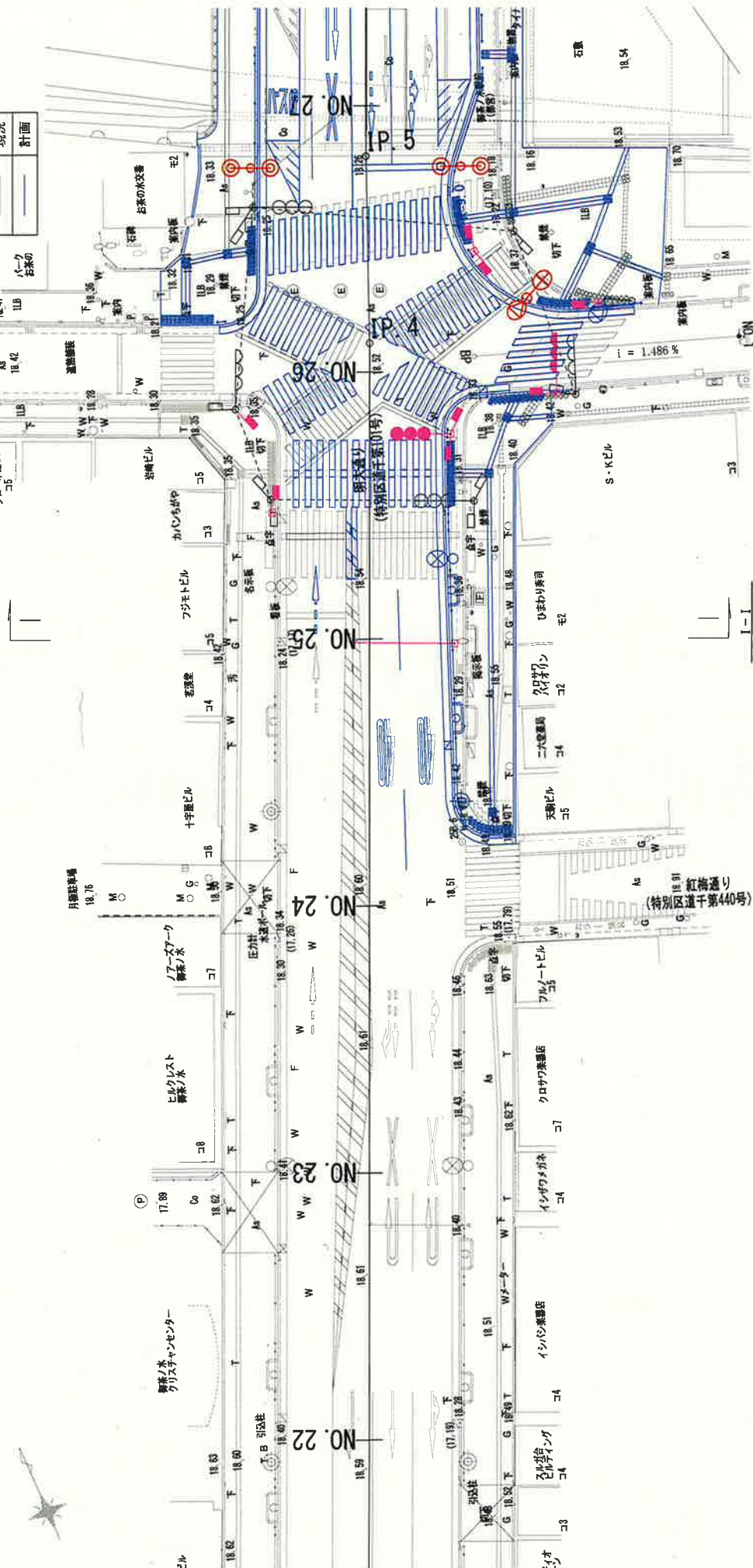
日本大学側



現況計画重ね図(6) S=1:300(A3)

凡例

——	現況
——	計画



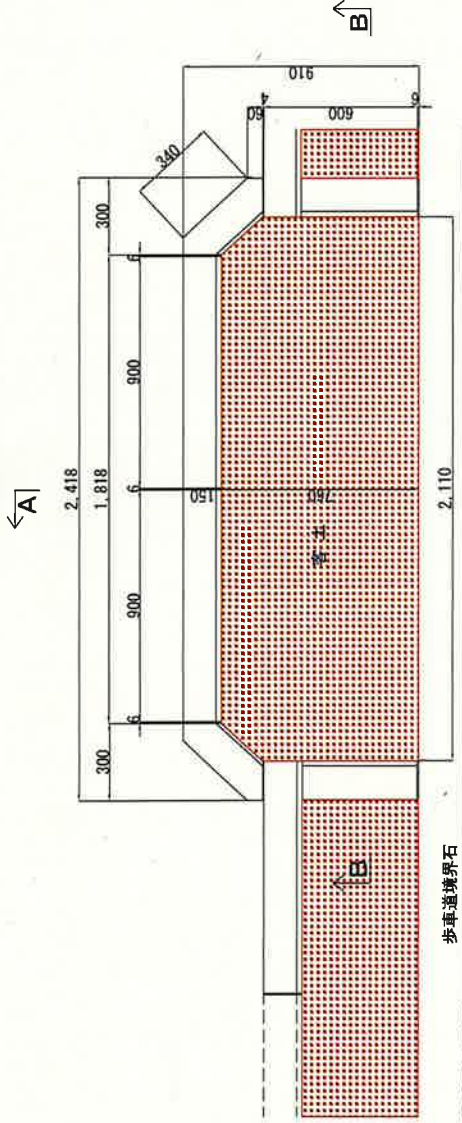
明治大学  
日本大学

# 植樹ます構造図(現況)

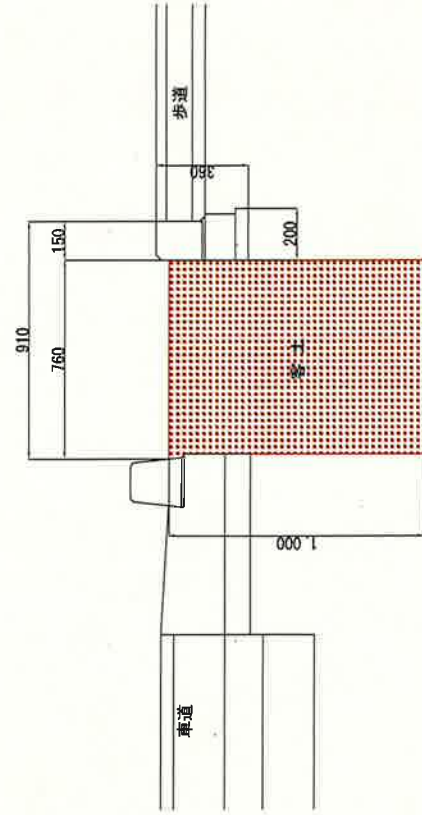
資料 4-2

S=1:20

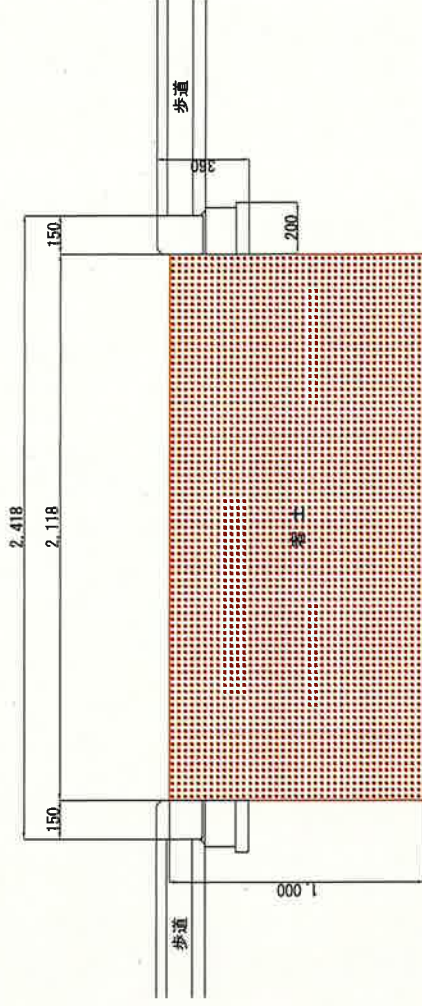
### 平面図



### 断面図(A-A)



### 正面図(B-B)



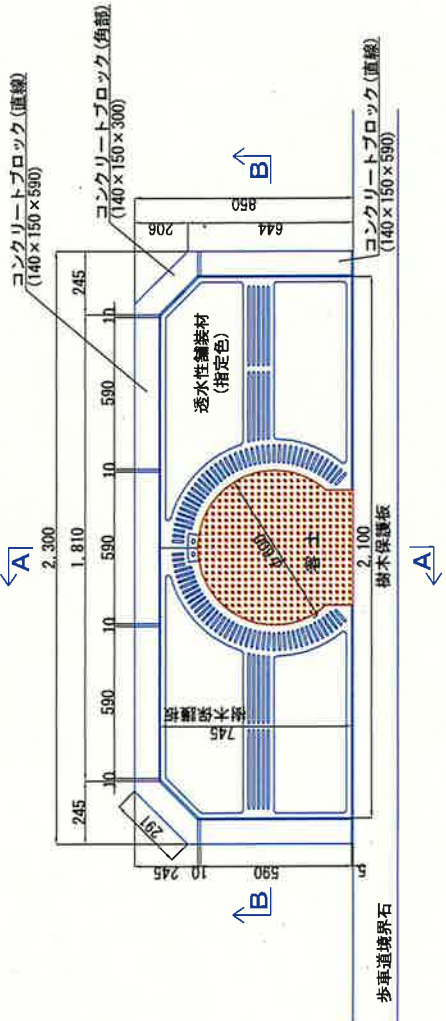
※植樹ますは、T-1型とする。(H30年度 東京都道路工事設計基準P1-160より)  
 ※客土深さは、100cmと想定する。



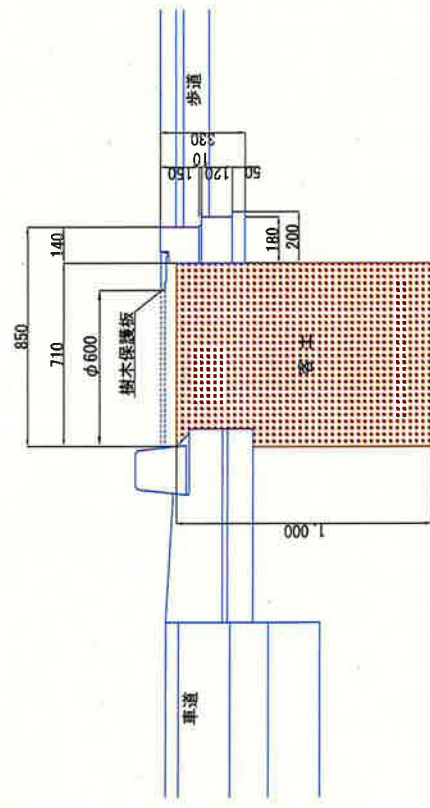
# 植樹ます構造図(計画)

S=1:20

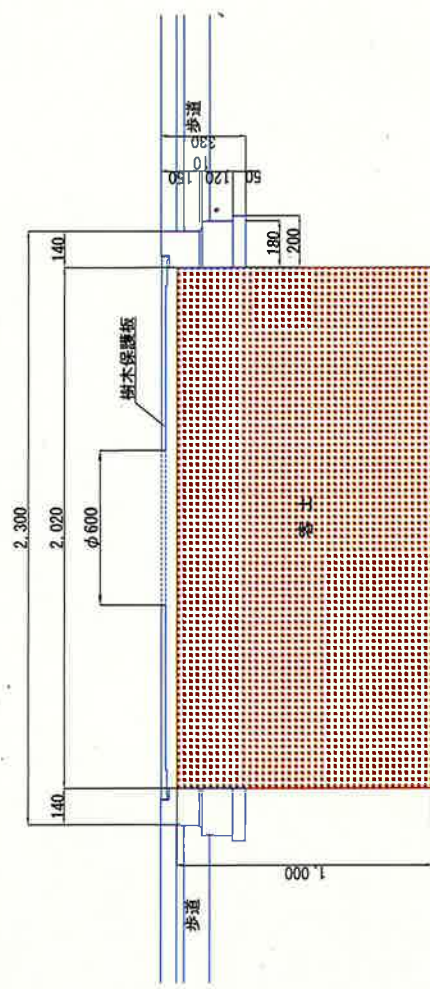
### 平面図



### 断面図 (A-A)



### 断面図 (B-B)



※寄土深さは、100cmとする。(H30年度 東京都道路工事設計基準P1-171より)